

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 広虫荘

特別養護老人ホーム 広虫荘

(短期入所・デイサービスセンターひろむし)

特別養護老人ホーム 和気広虫荘 (短期入所)

ケアハウス わけ

グループホームひろむし

令和3年度 事業報告

社会福祉法人 広虫荘

I. 法人の基本理念と基本方針

基本理念及び基本方針については、職員間で周知し、ケアの前提としている。

II. 令和3年度 法人全体の取り組み

令和3年度では、以下の点について取り組んだ。

1. サービスの質の向上

①人権の尊重

各拠点で高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会の定期的な開催を実施し、利用者様の人権について問題意識を持ちながらケアを実施した。

ただ、接遇面では、まだまだ評価できる状況ではなく今後も継続的な職員への啓発や研修が必要である。

②加算算定への取り組み

今年度から、LIFE（科学的介護情報システム）に関する加算体制を初め、加算算定に取り組んだ。その結果、科学的介護推進体制加算の算定を行うことが出来、その他の加算についても導入に取り組んだ。

③ICT化への取り組み

介護記録の効率化を目指し、タブレットでの操作を可能にするため館内のWI-FI設備を導入した。広虫荘ではICT導入補助金を申請した。年度末には介護ソフトの導入を行い、次年度以降、積極的な取り組みを行う体制づくりを行った。

④生活環境・利用環境の向上

特別養護老人ホーム広虫荘

- ・LED 電器への取替工事(新館3・4階)
- ・屋上防水工事(新館屋上)
- ・WiFi環境の整備(1・3・4・5階居室部分)

特別養護老人ホーム和気広虫荘

- ・WiFi環境の整備

2. 地域における公益的な取り組みの推進

<喀痰吸引等研修事業>

昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策の一環で研修の開講を見合わせた。

<生活困窮者支援事業>

食糧支援事業（くらしサポート事業）・・・・・・フードドライブ11月実施

<福祉出前講座>

小・中学生に介護の認識や介護分野への興味を持てるよう福祉総合学習として高齢者疑似体験や車いす体験の講師として派遣する事業であるが、今年度はコロナ禍の為、生徒への直接指導は控え、担任及び社協職員と事前協議のみ参加した。(市内小学校・・・・4校延4回)

3. 人材の確保に向けた取り組みの強化

今年度は、特別養護老人ホーム広虫荘にて常勤医師の採用を行い医療面での充実を行った。ハローワークからの紹介のケースは数件あったものの採用には至らなかった。人材紹介業者からの紹介についても積極的に活用し厳選した上で数名の面接を行ったが、介護職員1名の採用であった。また、個人的に事業所へ直接問い合わせがあり、介助職員1名の採用に繋がった事例があった。また、和気広虫荘においては職員の紹介等により介護職員1名と看護師（パート）1名の採用を行った。

昨年同様、外部における研修（接遇研修、認知症実践者研修、リスクマネジメント研修、感染症対策研修等）は、ほとんどの研修が中止になった。ただ、リモート研修については、出来るだけ時間を作り参加した。

各事業所別職員数（）内はパート職員数

	施設長	事務長	サービス課長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	看護師	介護職	機能訓練指導員	栄養士	調理員	掃除・洗濯員	夜警員	医師	嘱託医
特養 広虫荘	1	1	1	2	1	1	6 (1)	37 (8)	2 (1)	4	7	5 (3)	2	1	1
DS ひろむし					1		1	2 (1)							
特養 和気広虫荘	1	1	1	1	3	1	9 (6)	34 (4)	1	3	7 (1)	3 (2)	2		1
ケアハウス わけ					1			4 (2)			1				
グループホーム ひろむし								14 (1)							

【その他】

理事会・評議員会の開催

各会議については、以下の通りである。

理事会・評議員会については、概ね計画通りの実施ができ、事業計画・報告、補正予算計画、各規定等の改定、理事長の専決事項の報告等を行った。

苦情解決委員会を開催し、第3者委員の方々に苦情及び事故等の報告を行い、客観的な視点でのアドバイスを頂いた。

① 理事会（6名）の開催

6月（2回）・12月・3月 の 年4回開催

② 評議員会（7名）の開催

6月・12月・3月 の 年3回開催

③ 会計監査の実施

監事による監査 5月に実施

④ 苦情解決委員会の開催（第三者委員：2名参加）

10月に実施

Ⅲ 令和3年度 拠点別の取り組み

① 広虫荘拠点 介護サービス実施状況

区 分	特養広虫荘	短期入所	DS ひろむし
利用定員（人）	110	空床型	19
稼働日数（日）	365	365	308
稼働率（％）	93.9		55.7
1日利用者数（人）	103.3		10.6
（目標値：人/日）	104.5		15.0
利用延べ人数（人）	37,685	114	3,276

特別養護老人ホーム広虫荘の入居定員は110名となっている。現在（3/31）入居者102名となっている。年間稼働率95%を目標に運営を推進したものの、最終的には93.9%となりほぼ目標を達成した。年間の新規入所者33名、退所者33名、年間の入院者数は、延べ404人で、昨年と横ばいである。年間平均1日入院者数は1.1人であった。コロナ禍での運営であったが、常勤医師配置と看護・介護の連携のもと日々の健康管理と予防に努めている効果がみられた。

短期入所事業については、制度の改定や地域ニーズの変化により、昨今の稼働率が低迷していたが、今年度、空床型に変更したため単独の稼働率については減少したものの従来ショート床（2人部屋）を特養床に転換した結果、特養の多床数を増加することができ、結果稼働率を増加することができた。

通所介護事業所では、目標の平均利用者数を15人/日としていたが、達成は出来なかった。しかし、前年度より微増し、年間での平均利用者は10.6人/日となった。

年間の行事については、施設内に限られたが四季折々の歳事だけでなく、文化祭等を行い、利用者と一緒に実施できる行事を企画した。

② 和気広虫荘拠点 介護サービス実施状況

区 分	特養広虫荘	短期入所
利用定員（人）	100	空床型
稼働日数（日）	365	365
稼働率（％）	95.7	
1日利用者数（人）	95.7	
（目標値：人/日）	95.0	
利用延べ人数（人）	34,945	27

特別養護老人ホーム和気広虫荘入居定員は100名となっている。現在（3/31）は96名となっている。年間稼働率は95.7%と目標は達成できた。前年と比べて、入院者の減少（昨年度比：43%減少）、退所者が出てから1週間から10日の間に次の方に入所をしていただくという意識をもって動くことで空床期間も短くなっている。新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言中など、感染者の増減の推移を見ながら入所の調整を行った為、10日以上期間が空くことがあった。

今年度は、新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等による施設内での感染はなかった。

感染予防の観点から、「持ち込まない」「広げない」を徹底して、職員一人ひとりが感染症に

対しての意識を高めた。

実習生受け入れについては、実習元と協議し実習生の行動歴を確実に記録し、実習開始2週間前から実習終了までの行動自粛制限を行ったうえで、少人数体制で受け入れた。

③ ケアハウス拠点 福祉サービス実施状況

区 分	ケアハウスわけ
利用定員 (人)	30
稼働日数 (日)	365
稼働率 (%)	92.2
1日利用者数 (人)	27.8
(目標値: 人/日)	28.5
利用延べ人数 (人)	10,156

ケアハウスわけの入居者定員は30名となっている。現在(3/31)は入居者28名となっている。今年度は入院者の増加(前年度1.4倍)となった。また、新入所者の調整に手間取りスムーズな入居に至らなかったこともあり、年間稼働率も92.2%となり、目標の達成とはならなかった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、利用者に外出の自粛や制限をするなどの対応を行った。コロナ禍にあって、今年度も地域ケアカフェは中止したが、利用者のストレスが少しでも軽減されるようにと、また部屋への閉じこもりの予防も考え、施設内でカフェを開いた。また、DVD鑑賞等も感染対策を行いながら定期的に行った。

④ グループホーム拠点 介護サービス実施状況

区 分	グループホームひろむし
利用定員 (人)	18
稼働日数 (日)	365
稼働率 (%)	97.0
1日利用者数 (人)	17.4
(目標値: 人/日)	17.1
利用延べ人数 (人)	6,379

グループホームひろむしの入居定員は18名となっている。現在(3/31)は入居者18となっている。今年度は、入院者も前年度と比較して57%減少した。また、6人の退去者があったが、スムーズな入居を心がけたことで、今年度の稼働率は97%により目標を達成できた。

和気町地域密着連絡協議会は、コロナ禍にあって一部WEB会議により参加した。

外部の第三者評価を令和3年12月1日に実施した。

コロナ禍にあって、今年度も地域ケアカフェは中止したが、施設内カフェを開いた。